

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2371100583
法人名	有限会社 きずなの里
事業所名	きずなの里 みなと
所在地	名古屋市港区東茶屋一丁目462番地 (電話) 052-302-2057

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年9月11日	評価確定日	平成19年10月9日

【情報提供票より】(平成19年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年4月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	19 人	常勤 15人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成19年8月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	4名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	63 歳	最高	88 歳
協力医療機関名	中川胃腸科・外科、南陽病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表は、NPO法人きずなの会の役員をしており、毎日事業所を訪問し、庭の手入れ等をしている。きずなの会は、高齢者等の人権擁護活動を目的として、親族に代わる生活支援活動を行っている。身寄りの無い方や家族との間が疎遠になっている方が多く、職員は家族として入居者に接している。お互いに感謝の気持ちを忘れず、言葉で表現するようにしている。職員と入居者、入居者同士、職員同士の仲がよく、信頼関係が築かれている。職員の働きやすい環境づくりがケアサービスにつながると認識し、法人代表、管理者が前面に出るのではなく、各ユニットのチーフが中心となって、相互に情報を共有しながら職員の意見を取り入れ、一体となってケアに取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	研修については、管理者やチーフが外部研修を受講した後、資料を職員に回覧しているが、研修や勉強会の実施には至っていない。入浴は、入居者にゆっくりはいてもらいたいという考えから曜日が決まっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者からはわかるところを記述するようにと説明された。できていないところは改善していきたいと、評価についておおまかな話はあったが全職員が理解できるには至らなかった。記述式で書き方が難しく、項目の内容を理解できない職員もいた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーは、町内会役員、協力医、訪問看護ステーション所長、NPO法人きずなの会職員で構成されている。運営推進会議を実施し1年が経過し、地域行事への参加方法や防災訓練、リスクマネジメント、食中毒等について話し合い、メンバーから意見やアドバイスをもらっている。議事録は玄関入り口に掲示している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	きずなの会の職員も運営推進会議に参加している。相談受付や苦情受付のファイルは作成されているが、今まで記載されたことはない。家族とは、管理者が個々に話し合いをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しているが、清掃活動には迷惑をかけるとの考えで参加はしていない。散歩の時には地域の方と挨拶を交わし、近所の方から果物や衣服等をいただくこともある。ホーム内の行事には、近所の方に案内をしたが参加には至っていない。以前、近くの中学校の体験学習を受け入れたことがあるが現在は無い。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成17年に理念を見直し、健康を第一に考え、その人らしく、楽しく、ゆっくりゆったり生活していただけるよう職員は日々ケアに努めている。		地域密着型サービスとして、理念の内容に地域との関わりについても織り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各階の廊下に掲示されている。日常生活の中で、「ありがとう」の言葉を大切にしており、職員は入居者の顔や目を見ながら伝えることで、互いに気持ちが理解できるよう心がけている。気づいたことは職員同士話し合い、理念を意識しながらケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しているが、清掃活動には迷惑をかけるとの考えで参加はしていない。散歩の時には地域の方と挨拶を交わし、近所の方から果物や衣服等をいただくこともある。ホーム内の行事には、近所の方に案内をしたが参加には至っていない。以前、近くの中学校の体験学習を受け入れたことがあるが現在は無い。		地域の行事が減少する中、地域の方との接点の確保に向け、幼稚園との交流や小、中学校とのさらなる関わりについて、今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修については、管理者やチーフが外部研修を受講した後、資料を職員に回覧しているが、研修や勉強会の実施には至っていない。入浴は、入居者にゆっくりはいてもらいたいという考えから曜日が決まっている。できていないところは改善していきたいと、評価について管理者からおおまかな話はあったが全職員が理解できるには至らなかった。記述式で書き方が難しく、項目の内容を理解できない職員もいた。		今回の外部評価を活かして、評価項目についての理解や具体的な改善に結びつけることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは、町内会役員、協力医、訪問看護ステーション所長、NPO法人きずなの会職員で構成されている。運営推進会議を実施し1年が経過し、地域行事への参加方法や防災訓練、リスクマネジメント、食中毒等について話し合い、メンバーから意見やアドバイスをもらっている。議事録は玄関入り口に掲示している。</p>		<p>職員に対する運営推進会議の報告を議事録の確認だけではなく、話し合いの機会を設けたいと考えていることから実現に向けた取り組みに期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>保護系には、入居者の状態について相談したりしているが、事務的なことが多い。</p>		<p>市や区役所と事業所が連携がとれるよう、情報提供していくことを期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>身寄りの無い方や家族との間が疎遠になっている方が多く、NPO法人きずなの会が身元引受人になっている。2カ月に1回「きずなの里だより」を発行しきずなの会や家族に送付している。金銭管理については、出納帳をつけ、きずなの会に報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>きずなの会の職員も運営推進会議に参加している。相談受付や苦情受付のファイルは作成されているが、今まで記載されたことはない。家族とは、管理者が個々に話し合いをしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は原則ユニットで固定しているが、ユニット間の異動をすることもある。職員は2ユニット18名を意識してケアにあたるよう心がけており、入居者へのダメージはない。夜間は、4人でローテーションを組んでいる。職員21人中、17人が常勤であり、休憩時間は1時間確保している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時には、1カ月間現場研修を行っている。外部研修については、管理者やチーフが参加し、資料を職員に回覧している。職員には、研修の案内をし、希望者が個人で参加している。</p>		<p>職員が経験や習熟度に応じて、力をつけていくために、外部、内部問わず研修の機会を確保できるように事業所として計画されていくことに期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの集まりに参加したことはあるが、積極的な取り組みは行っていない。</p>		<p>職員が同業者との交流の機会を通じて、情報交換やサービスの質の向上につながるよう今後の取り組みに期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、事業所に来てもらったり、場合によっては事業所から面談に出かけることもある。体験入居の制度はないが、事前に来てもらい、他の入居者や職員とふれあい、納得して入る人もいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者はお客様ではなく、共に暮らす仲間であり、できることは行ってもらっている。介護する職員にも周知し、食事の準備や片付け、裁縫、習字等、入居者の得意なことを発揮してもらえよう支援している。してもらった時には、「ありがとう」と感謝の気持ちを忘れず、言葉で伝えるよう心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の思いを引き出し、楽しく過ごしてもらえるよう職員は入居者との会話を大切にしている。表情や態度から、元気がないと感じたら、本人とよく話しをすることで、互いの思いを理解するようにしている。外出希望ができれば、きずなの会の協力も得ながらできる限り対応している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は日々の申し送りや、休憩時間等に入居者の状態や気づいたことを話し合っている。出てきた意見はチームに報告され、再度アセスメントし、サービス担当者会議で話し合い作成している。医師や看護師の意見も取り入れている。できあがった介護計画は、職員が目を通し、意見があれば再度検討している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3カ月毎に見直しを行っており、必要に応じて新たな介護計画を作成している。チームが見直し時期の前に職員から情報を収集している。介護計画には、本人のできないことだけをあげるのではなく、本人の楽しみやできることを広げ支援していけるよう、介護計画に反映させている。楽しく過ごしてもらうためには、健康が第一であると考え、健康チェックを細かくしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>多機能性を活かした支援は特に実施していない。医療連携体制加算を受けており、2週間に1回、協力医の往診があり、訪問看護ステーションより看護師が週1回訪問している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医の往診が2週間に1回あるが、場合によっては、1週間に1回来てくれる等、柔軟に対応してくれる。入居時には、眼科、皮膚科、歯科の受診をしてもらい、入居者の状態について把握し適切な医療を受けられるよう支援している。通院介助にはチームが付き添い、通院記録をつけ、経過や内容が把握できるようになっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に対する対応や看取りについて指針があり、入居時に同意をもらっている。協力医との連携が密にとられ、本人や家族、職員の安心につながっている。過去に終末期の経験もある。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、入居者に対しての声かけや言葉づかい、対応方法において、本人の誇りやプライバシーを損なわないように努めている。常に敬う気持ちを忘れないように管理者は職員に話しており、入居者の前では他の入居者の事を話さないよう注意している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者のペースを尊重することを職員は意識している。おおまかな1日の流れはあるが、入居者本位の支援に努めている。喫煙される人もおり、医師と相談の上、指定場所である休憩室で吸っている。休憩室には、入居者が育てている金魚があり、職員と一緒に世話をしている。火曜日には行事やレクリエーションを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理者が1週間ずつたてている。入居者には、声かけをし、できることを手伝ってもらい、職員と協力しながら食事づくりや後片付けを行っている。黒板に献立を書く役割の入居者もいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂はリラックスする場であり、ゆっくり入ってもらいたいと考え、入浴の日を入居者毎に決め1人30分くらい入浴している。1日3名の入浴で、3日に1回となっている。シャワーは自由に使用できるようになっている。入居者から色々な思いを聞く機会であることを認識し、職員はその時間を大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが楽しみながら、役割をもって過ごしてもらうよう支援している。春や秋には喫茶ツアーに出かけることが多く、買い物ツアー、行事やレクリエーション等の充実を図っている。午前中には、テレビ体操を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は散歩、広い庭で日向ぼっこをしたり、花摘み等、自由参加で行われている。農業文化園や植物園、戸田川緑地等、遠足に出かけることもあり、お弁当を持参して楽しんだ。個人の外出希望においては、きずなの会の協力も得ながらできる限り対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関が開放されている。常に玄関は開け、空気の入れ替えをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施しており、消防署の協力を得て行っている。次回の避難訓練でも消防署の協力を得て実施する予定である。運営推進会議で、協力医から備蓄品についてアドバイスをもらい、3日分の食料や水を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については、なかなか摂らない人には、摂取量を記録し、好きな飲み物を中心に摂ってもらうようにしており、甘いものにかたよらないよう気をつけている。1日1,000ccを目安にしている。献立については、管理者が本を参考にしながらたてている。2カ月に1回血液検査をしており、健康管理に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い庭には季節の花が多く植えられており、ベンチが数カ所置かれている。庭の一角でカメを飼育している。2階のリビングには、職員が描いた入居者の似顔絵が飾られている。洗面所、トイレ、廊下の消毒チェック表があり、清潔に努めている。浴室の前には、入浴表が掲示され、入居者にわかりやすくなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で孤立することがないように、テレビの持ち込みは断っている。テレビを見たい場合は、リビングで皆と一緒に見ている。居室には、タンスや仏壇等、馴染みの物を持ち込んでいる。字が読めない人には、タンスに絵で表示をする等、本人に分かりやすいよう工夫している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。